

令和3年度 学校評価表

学校教育目標	学校教育目標 「自ら学び、考え、自立した行動ができる「きさ」の子どもの育成」
--------	--

重点目標	真剣(主体的な学び・深い学び)に学び、人を大切にする児童の育成
------	---------------------------------

評価計画				
経営目標		評価指標	具体的な取組・方策	
中期	短期			
生きる力の育成	確かな学力を育成する	学習規律を定着させる。 主体的・深い学びの充実を図る。	・「ベル着」「次の学習準備をする」「号令前後の静止」の徹底を図る。 ・課題意識を明らかにし、自分の考えを持ち、それぞれの友達の考えや思いと自分の考えとの相違点を考える主体的・深い学びの充実を図る。	
		学力を確実に定着させる。	①全教科の単元テストで80点以上の児童の割合を各学年85%（昨年度81%）以上にする。 ②三次市学力到達度検査（基礎・活用）で、全国平均を上回った教科数の割合80%（昨年度85%）以上にする。	・各教科の特性を生かした指導を工夫改善し、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 ・ノート指導に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・ドリルタイムやランチタイムスタディを機能的に活用し、基礎的な技能の習得や復習を図る。
		自学力を育成する。 (小中一貫教育)	・自主学習に取り組む児童を80%以上にする。	・考えの根拠を明確にしなが、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 ・家庭学習で予習や復習などの自主学習に取り組ませる。
	豊かで健やかな心身を育成する	自己有用感の向上と礼節と規範意識の定着(小中一貫教育)	・自己有用感を持つ児童を80%以上にする。 ・あいさつのできる児童を85%以上にする。 ・規範意識をもつ児童を85%以上にする。	・自分の良さに気付き、伸ばしたい意欲や友達の良さを認められる児童を育てると共に、認め合い、つながりを深める集団づくりに努める。 ・道徳学習プログラム「吉(よ)き舎(やど)りプログラム」を計画実施し、自分との関りで考えさせる。 ・あいさつレベル(低学年 大きな声で挨拶をする。中学年 相手に伝わるように挨拶をする。高学年 場に応じた挨拶をする)に応じた挨拶ができる児童を育成する。 ・道徳科などとの関連を生かして規範意識の向上を図る。 ・アンケートやi-checkを分析し、PDCAサイクルで取り組む。
		体力を向上させる	・新体力テストで、70%以上(昨年度61%)の項目が県平均または全国平均を超えるようにする。 ・食に関心を持ち、食べ物を好き嫌いせずに食べようとする児童を75%以上にする。	・新体力テストの県平均等や昨年度の自己記録をもとに、自己目標を設定させる。 ・体育科を中心に体づくり運動に取り組む。 ・給食時間や各教科等の時間を活用して、食に関する指導を行うとともに、掲示やたより等を活用して、食に関する興味・関心を高める。
	く信り頼をされる学校づくり	地域に信頼され、開かれた学校づくりを推進する。	・小中連携の充実を図り、月に1回以上、学校だよりやホームページ等で保護者や地域に情報提供を行う。保護者アンケートで肯定的な回答の割合を90%以上(昨年度93%)にする。	・「きさ」小中一貫教育推進協議会の計画のもとに、小中9か年を見通しためざす子ども像に向け、連携教育の実施、充実を図る。 ・学校だより、ホームページで小中連携教育の取組を具体的に分かりやすい内容で保護者、地域に情報提供を行う。保護者アンケートを実施し、小中連携教育に関わる保護者等の理解を把握し、取組に生かす。
働き方改革	教職員の児童に向き合う時間の割合を増やす。	・働き方改革により、児童に向き合う時間の割合が増えた実感を感じる教職員の割合を80%以上(昨年度82%)にする。	・学期ごとのアンケート、メンタルヘルスチェックにより実態を把握し、学校衛生委員会、企画委員会の取組を行う。	

(評価) A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60